

5 地方名調査結果

(1) 昆虫類（節足動物）

1) バッタ類（バッタ目）

① バッタ（総称）

ア 対象種

バッタ、イナゴ類

イ 採録した呼び名

- ・ 一般的な和名等 バッタ、バツタムシ、バツタン
- ・ その他 ガタギ、ガッタ、バタバタ

ウ 生息及び呼び名の状況

夏から秋にかけて草地や空き地などで見かけられる主として草食性の昆虫である。発達した後ろ脚で跳ねて飛翔する特徴があり、田んぼにいるイナゴ類を含め多種のバッタ類が現在も郡内全集落に生息する。

本類総称としては、「バッタ」や「バツタン」をはじめ計6種を採録した。

郡内のほぼ全域で一般的な和名である「バッタ」と呼ばれたほか、「バツタン」とも呼ばれたようである。

また、イナゴ類を「ガタギ」や「ガッタ」と呼ぶ地域の一部では、集落や人によっては本類総称として同様に呼ぶ場合がみられ、かつてはそうした使われ方がより広い地域でされていた可能性がある。



トノサマバッタ

※ 採録したバッタ類の呼び名について

本類は種類が多く、身近にいてよく名の知られた種であっても、回答者によってはしばしば呼び名の混同がみられた。

鳴き声（発する音）に由来する呼び名の中には、特定種を指すものではなく複数種を合わせたものがあり、かつ、その対象種が人により異なることがあることから、同定に曖昧な部分が残る。

例：ギッチョ、ギッチョムシ等

また、多くの集落で対象種が不明な呼び名であっても、特定の集落ではっきりとした種の説明があった場合は他集落もそれに倣った場合があり、これらは集落によっては他種の呼び名であったり、他種を含むものである可能性が残る。

例：ガタギリ（キリギリスの呼び名とした）

：オカマガリス、カマガリス（カマドウマの呼び名とした）

② ショウリョウバッタ (バッタ科)

ア 対象種

ショウリョウバッタ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 反復する動き コメツキバッタ、コメツキ
バッタン、ハタオリ、ハタオリバッタ、
ハタオリムシ
- ・ 発する音 キチキチ、キチキチバッタ、キ
リキリバッタ
- ・ その他 オーカミバッタ、オサキ、オソメ、オソメバッタ、オネギサン、オマキ、オマン、
オマンマ、オヨメ、サンカクバッタ、スイスイ、スイスイバッタ、ネギ、ネギサン、
ネギサンバッタ、ネギション、ネギソン、ネギチョン、ネギッチョ、ネギドン、ネギ
ネギ、ネギネギバッタ、ネギバッタ



エ 生息及び呼び名の状況

秋に草むら等でよく見かけられる最も大型のバッタであり、現在も郡内全集落に生息する。

本種の呼び名としては、「ネギ」や「ハタオリ」をはじめ計31種を採録した。

集落内であっても動きや発する音等から多くの呼び方をされた昆虫であり、郡内で共通したものと地域で異なるものがみられた。

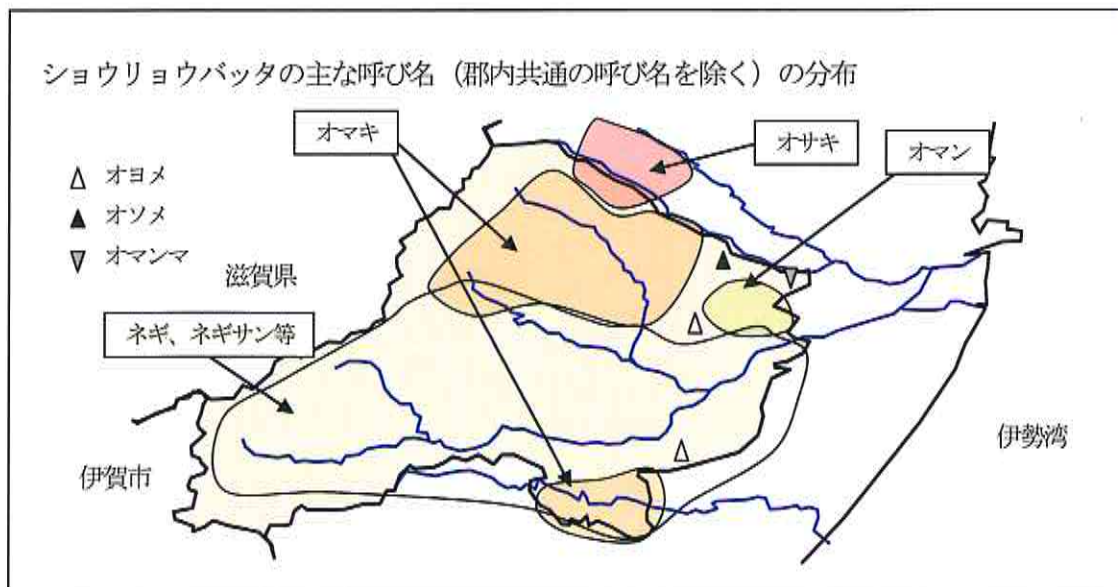
郡内共通の呼び名としては、長い脚を持つと規則的な反復運動をすることから「ハタオリバッタ」や「コメツキバッタ」、また飛翔時に発する音から「キチキチバッタ」等がみられた。

地域で異なる呼び名としては、郡内は大きく4つの地域に分かれ、鈴鹿川上中流域の集落では「ネギ」や「ネギサン」と呼ばれたほか、昼生地区と庄内・深伊沢地区等で「オマキ」、石薬師地区で「オマン」、また椿地区の一部で「オサキ」がみられた。

オ その他

大型で目立ち比較的捕獲しやすい昆虫であり当時の子ども達はよく捕まえ、二本の長い後脚の先の部分を後方から掴み、反復運動をさせながら次のようなことを言い遊んだという。

- ・ 「ネギネギ (集落により,) ネギサン、オヨメ、オサキ、オサキちよんちよん、オマキ、オマン等) 機織れ、一反織ったら暇やるぞ」 ・ 「ネギネギ機織れ、米一升やるぞ」
- ・ 「ネギドンネギドン機織れ機織れ、1反織ったら逃がしてやるぞ、2反織ったら逃がしてやるぞ」
- ・ 「ネギネギバッタ、米ついて食わせ」



③ イナゴ (イナゴ科)

ア 対象種

コバネイナゴ、ハネナガイナゴ等

イ 生息情報

ほぼ全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 体色等 アオンチョ
- ・ 一般的な和名 イナゴ
- ・ その他 イナイゴ、ガタギ、ガッタ、ガッタギ

エ 生息及び呼び名の状況

夏から秋にかけて稲の収穫時になると、田んぼでよく飛び跳ねる姿が見かけられる昆虫であり、現在も山間の一部を除く郡内のほぼ全集落に生息する。

イネにつく害虫でもあり、農薬の広範囲な使用で一時期ほとんど姿を消したが、近年は比較的多く見かけられる。

本種(類)の呼び名としては、「イナゴ」や「ガタギ」をはじめ計6種を採録した。

郡内全域で一般的な和名である「イナゴ」と呼ばれた一方、昔からの呼び名としては大きく3つの地域に分かれ、郡西部の加太地区では「イナイゴ」、坂下地区から亀山地区にかけては「イナゴ」、郡東部から北部地域にかけての広い地域で「ガタギ」と呼ばれた。また、深伊沢地区では体色等からの「アオンチョ」もみられた。

なお、隣接地域として調査を行った伊賀市柘植町では加太地区と同様に「イナイゴ」、また甲賀市土山町では坂下地区と同様に「イナゴ」を採録し、共に峠を挟んで関係がみられた。

オ その他

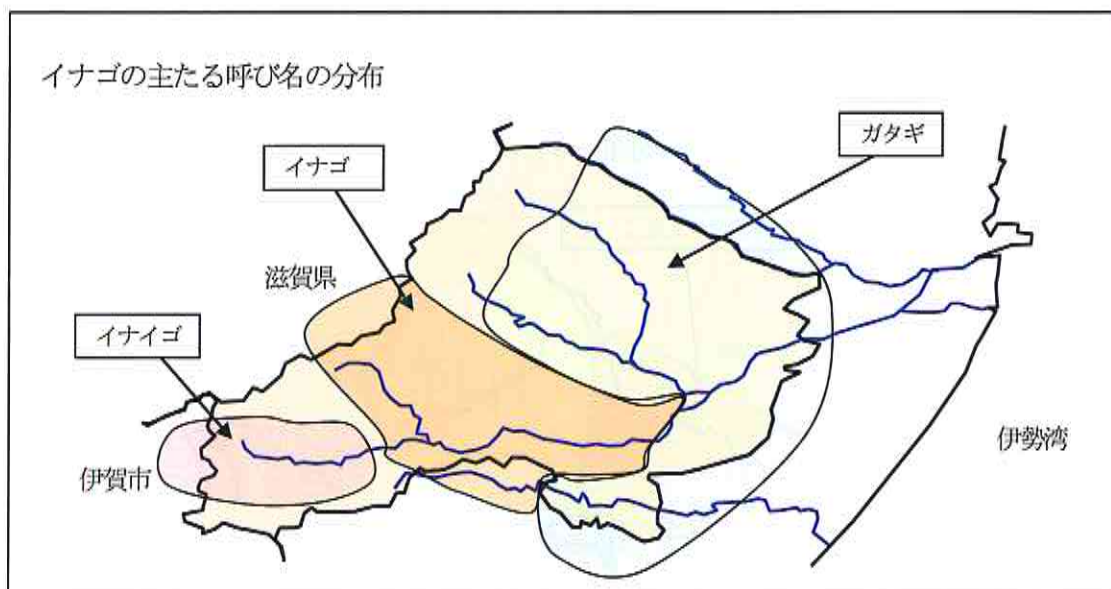
「バッタ」との区別に関して、本種は頭部の形状のほか、主に田んぼで見かけられる場合での呼び名という。

当時は本種を捕まえ炊いたり蒸して乾かし粉末にし食用にしたという話やニワトリの餌として捕まえたという話とともに、よく見かけられる姿から次の諺を採録した。

- ・ 「おぼれて死ぬのはガタギの生涯」



コバネイナゴ



④ ウマオイ（キリギリス科）

ア 対象種

ハヤシノウマオイ、ハタケノウマオイ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 鳴き声 スイスイ、スイッチョ、スイッチョ
ン、ズイッチョン、ズンチョ、チミス、
チンミス、チンミース

※ ギッコムシ、ギッチョ、ギッチョムシ、
ギッチョン、ギッチョンチョン、ギッチョ
ンムシ



エ 生息及び呼び名の状況

人家の周囲の草むら等で夏から秋の夜を奏でる代表的な昆虫であり、現在も郡内全集落に生息する。人と自然との関わりが変わったこと等から近年、姿を目にすることは少ないが、当時は家の障子や蚊帳に時折留まっていたという。

本種の呼び名としては、「スイッチョン」や「チミス」をはじめ計8種のほか、他種と合わせた呼び名である「ギッコムシ」や「ギッチョン」等を合わせ計14種を採録した。

採録した呼び名は全てその特徴的な鳴き声に由来するものであり、郡内は大きく2つの地域に分かれ、郡中部以東の広い地域では「スイッチョ」、「スイッチョン」等と呼ばれたほか、郡西部の坂下地区と加太地区で主として「チミス」や「チンミース」と呼ばれ、それらは他に関町や白川、神辺、野登地区の一部でもみられた。

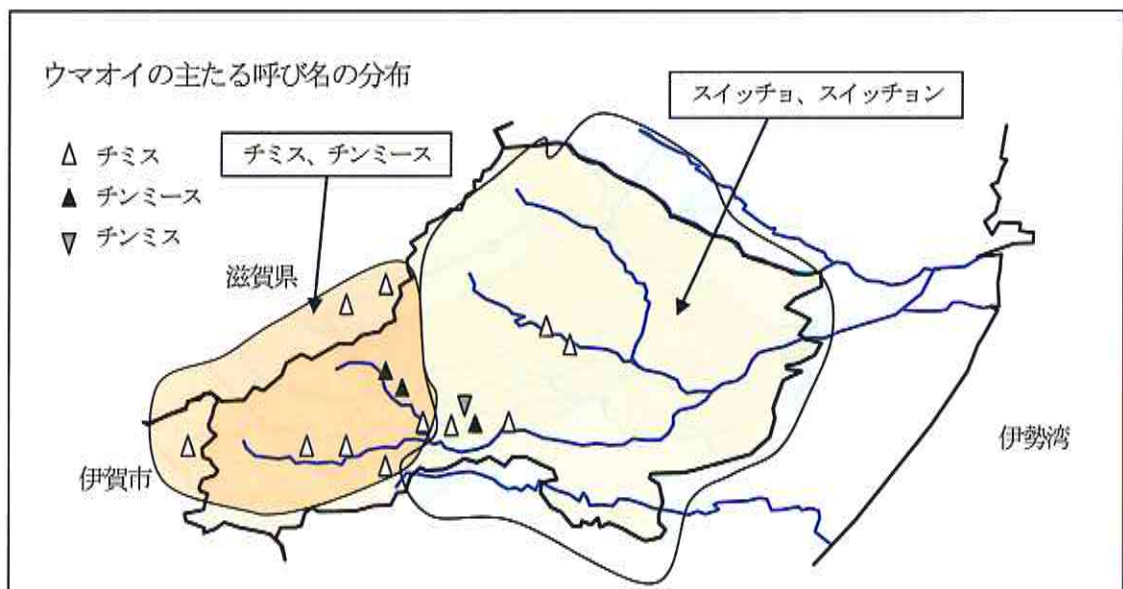
また、キリギリス等と共通した呼び名である「ギッチョ」、「ギッコムシ」等ともほぼ全域で呼ばれたようである。

なお、隣接地域として調査を行った甲賀市土山町や伊賀市柘植町では「チミス」を採録し、峠を挟んで関係がみられた。

オ 鳴き声の聞きなし

次の8種を採録し、全域で聞きなしが呼び名とほぼ一致していた。

- ・ スイスイ。 スイッチョ。 スイッチョン。 スイッチョン。 ズンチョ。
- ・ チンミース。
- ・ ギッチョ。 ギッチョン。(⑤※を参照)



⑤ キリギリス (キリギリス科)

ア 対象種

ニシキリギリス、ヒガシキリギリス

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 鳴き声等 ギリス、ギリスチョン、ギリッチョ、ゲレス、ゲレスチョン
 - ・ その他 ガタギリ
- ※ ギッコムシ、ギッチョ、ギッチョムシ、ギッチョン、ギッチョンチョン、ギッチョンムシ



エ 生息及び呼び名の状況

人家の周囲の草むら等で秋の夜を奏でる代表的な昆虫であり、現在も郡内全集落に生息する。本種の呼び名としては、「ギリス」や「ギリスチョン」をはじめ計6種のほか、他種と合わせた呼び名である「ギッコムシ」や「ギッチョン」等を合わせ計12種を採録した。

郡内全域で「ギリス」や「ゲレス」、あるいは「ギリスチョン」等と呼ばれたほか、国府・牧田地区を中心に「ガタギリ」がみられた。

また、ウマオイ等と共通した呼び名である「ギッチョ」、「ギッコムシ」等ともほぼ全域で呼ばれたようである。

オ 鳴き声の聞きなし

次の5種を採録し、全域で主として「ギリスチョン」等と鳴くと認識されていた。

- ・ ギリスチョン。 ギリースチョン。 ギリッチョン
- ・ ギッチョ。 ギッチョン。(※を参照)

※ 採録した呼び名「ギッコムシ」、「ギッチョ」、「ギッコムシ」、「ギンチョン」等について

こうした呼び名は人により対象種が異なり、多くはウマオイやキリギリス、一部にショウショウバッタであるとする回答もみられた。呼び名が鳴き声(発する音)に由来することから、主としてウマオイ、キリギリスを指す呼び名のように、本書では、※印をつけ、それら共通の呼び名として整理をした。



⑥ クツワムシ (キリギリス科)

ア 対象種

クツワムシ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 鳴き声 ガシヤ、ガシヤガシヤ、ガチャガチャ、カラカラ
- ・ 体色 (薄茶) カレ

エ 生息及び呼び名の状況

人家の周囲の草むら等で秋の夜を奏でる代表的な昆虫であり、現在も郡内全集落に生息する。

本種の呼び名としては、「ガチャガチャ」や「ガシヤガシヤ」をはじめ計5種を採録した。

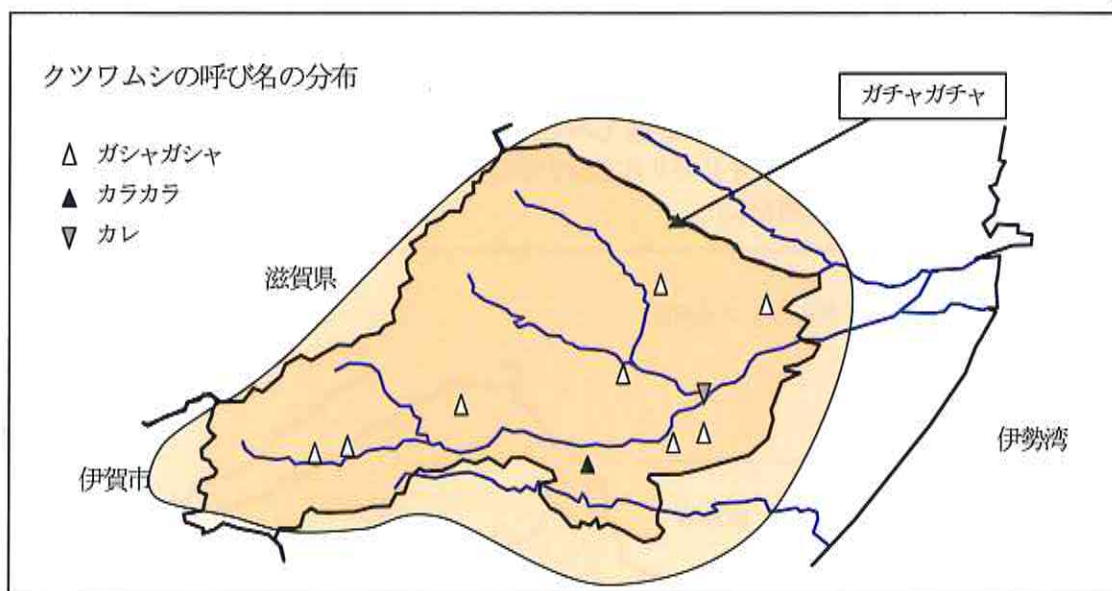
郡内全域で特徴的な鳴き声に由来する「ガチャガチャ」と主として呼ばれたほか、「ガシヤガシヤ」や「ガチャ」がみられた。

また、一部の集落で薄茶色の体色の個体を「カレ」と呼ぶ場合がみられたが、同様な呼び方は先にまとめたカマキリでもいくつかの集落で採録したことから、他のバッタ類においても同様な呼び方をされることがあったものとみられる。

オ 鳴き声の聞きなし

次の3種を採録したが、全域で主として「ガチャガチャ」と鳴くと認識され、それが本種を代表する呼び名ともなっていた。

- ・ ガシヤガシヤ。 ガタガタ。 ガチャガチャ。



⑦ カマドウマ (カマドウマ科)

ア 対象種

カマドウマ、マダラカマドウマ、クラズミウマ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 形状等 アシナガ、エビコーロギ、ネコ、ネコカマゴ、ネコゼナカ、ネコムシ
- ・ 生息場所 (かまど・味噌蔵等) カマドコーロギ、カマドムシ、シケムシ、ミソクイ、ミソスリ、ミソネブリ、ミソンボ
- ・ 跳ねること ノミムシ、ピョンピョン
- ・ その他 ウマコロシ、エマシ、エマシクイ、オウマサン、オカグロサン、オカマガリス、オカマゴ、カマガリス、カマゴ、タカウマ、タカンマ、ダカンマ、ホッケ



カマドウマ

エ 生息及び呼び名の状況

人家の縁下や土間であった台所付近、井戸近くといった少し湿気た所でよく見かけられた昆虫であり、目にする機会は少なくなったが現在も郡内全集落に生息する。薄茶の体色であり長い脚でよく跳ねる一方、それを掴むとすぐに取りれてしまうこともある。

本種(類)の呼び名としては、「ネコムシ」や「ホッケ」をはじめ計28種を採録した。

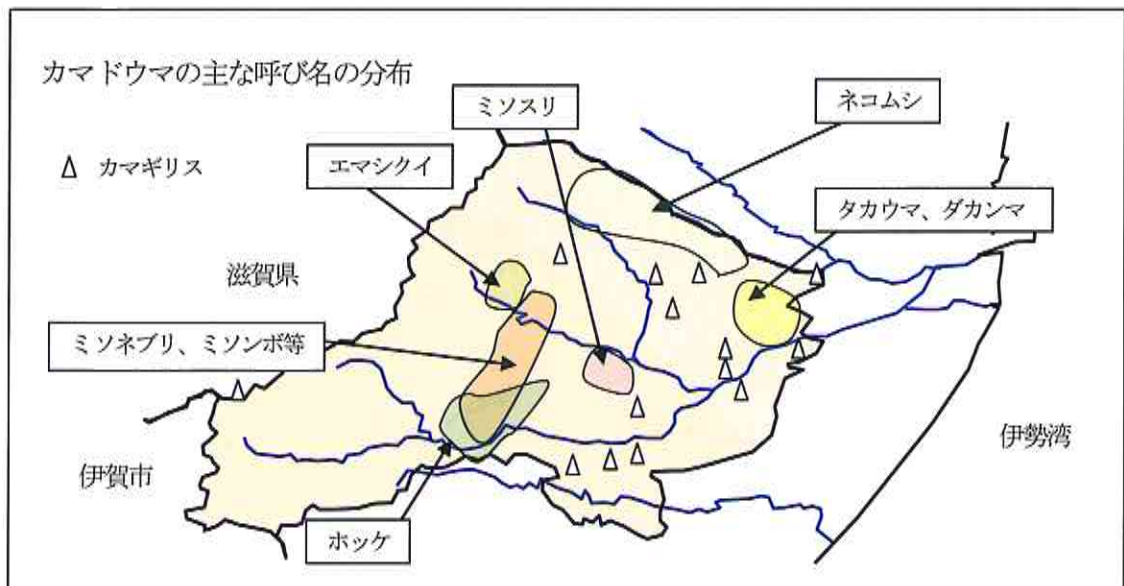
郡内では形状や生息場所等から多様な呼び名がみられ、椿地区から久間田地区にかけて「ネコムシ」、石薬師地区で「タカウマ」や「ダカンマ」、関町地区から神辺地区にかけて「ホッケ」、また白川地区から野登・川崎地区の一部にかけて「ミソネブリ」、「ミソンボ」等と呼ばれた。

一方、平野部となるに従い呼び名がはっきりとしなくなり、集落によっては湿気た所に生息する虫の総称である「シケムシ」と呼ばれる場合もみられた。

なお、隣接地域として調査を行った芸濃町林(川原)では「ミソバツタ」、津市高野尾では「クドムシ」、四日市水沢町では「ヒヨコ」、伊賀市柘植町では「カベムシ」を採録した。

オ その他

昔は本種がカイコをよく食べに来たという話がみられた。



⑧ コオロギ (コオロギ科)

ア 対象種

エンマコオロギ、ミツカドコオロギ、ツツレサセコオロギ、オカメコオロギ等

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般的な和名 コーロギ
- ・ 鳴き声 キリキリ、キリギリ
- ・ その他 カマゴ、ツツレサセ、ボッコツギ、ボッコツゲ



エ 生息及び呼び名の状況

人家近くの畑などでよく見かけられる小型の昆虫であり、現在も郡内全集落に生息する。秋から初冬にかけての夜によく鳴き声が聞かれる。

本種 (類) の呼び名としては、「コーロギ」や「カマゴ」をはじめ計7種を採録した。

郡内全域で一般的な和名である「コーロギ」と呼ばれた一方、古い呼び名である「カマゴ」が加太地区を除くほぼ全域で見られ、当時の高齢者はよく使っていたという。

また、「キリキリ」や「キリギリ」のほか、「ツツレサセ」や「ボッコツゲ」といった鳴き声の聞きなしに由来する呼び名も一部に見られた。

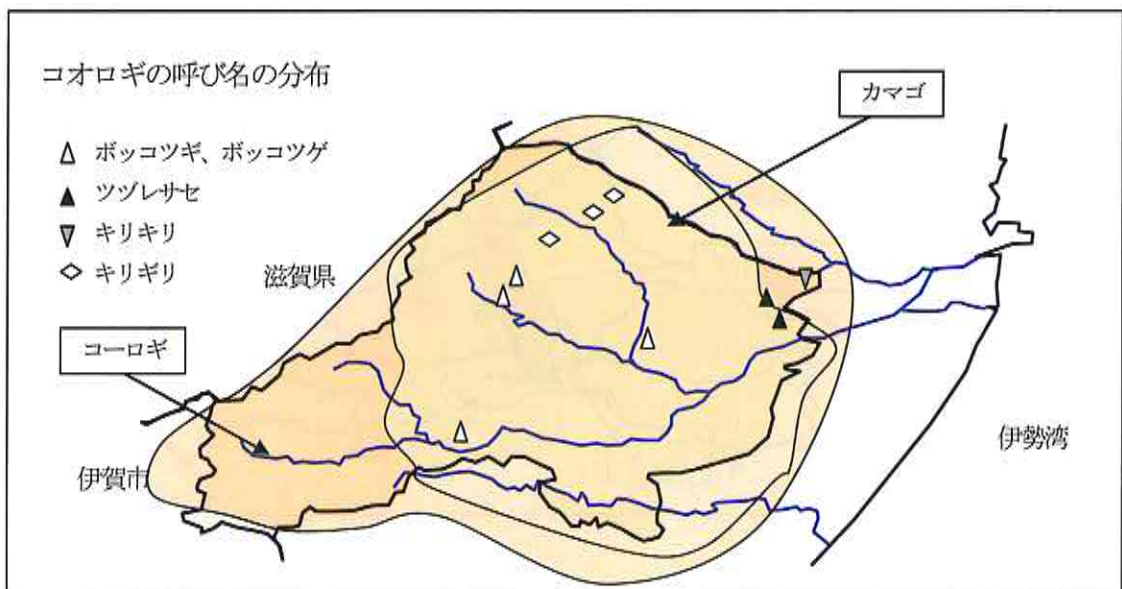
オ 鳴き声の聞きなし

次の22種を採録し、ほぼ全域で「コロコロ」等と鳴くと認識されるとともに、「ツツレサセ ボッコサセ」等冬支度を促すように鳴くという聞きなしが多くみられた。

- ・ キリキリ。コロコロ。チリチリ。チンチロリン。リンリン。シリサセ ボッコサセ。
- ・ ツツレサセ。 ツツレサセ カンコサセ (又は ~ボッコサセ。 ~ボッコツゲ)。 ツツレツゲ ボッコサセ。 ボッコサセ。 ボッコサセ ツギサセ (又は ~ツツラサセ。 ~ツツラタテ。 ~ツツレサセ。 ~ツツレサセ カタトツテ スツツゲ。 ~ツツレサセ サブナルノ)。 ボッコツゲ。 ボッコツゲ ツツレサセ (又は ~ボッコツゲ)。 ボロツゲ ボロツゲ。

カ その他

本種の鳴き声は冬の訪れの前触れとされ、鳴くと年寄りが「寒くなる前に冬の支度をしろ」と言ったという話が多くみられたほか、「カマゴがタバコバ (=煙草の葉の新芽) を食う」という話もみられた。



⑨ スズムシ (コオロギ科)

ア 対象種

スズムシ

イ 生息情報 全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 鳴き声 リンリン、リンリンムシ
- ・ 標準和名 スズムシ

エ 生息及び呼び名の状況

河原の土手の草むら等で鈴の音のようなきれいな鳴き声を上げ秋の夜を奏でる代表的な昆虫であり、現在も郡内全集落に生息するようである。

本種の呼び名としては、「スズムシ」や「リンリン」をはじめ計3種を採録した。

郡内全域で標準和名である「スズムシ」と呼ばれたほか、鳴き声に由来する「リンリン」等が一部にみられた。なお、西庄内町で昔は全く異なる呼び名があったという話がみられた。

オ 鳴き声の聞きなし

次の3種を採録し、全域で「リンリン」等と鳴くと認識されていた。

- ・ キーキー。 リンリン。 リーンリーン。

カ その他

本種は昼間でもきれいな鳴き声を上げることからよく人家で飼われたようであるが、限られた中で交配が続くと鳴き声がかすれてくるという。



⑩ チンチロリン等と鳴く虫 (マツムシ (コオロギ科))

ア 対象種

マツムシ

イ 生息情報 全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 鳴き声 チンチロ、チンチロチン、チンチロムシ、チンチロリン

エ 生息及び呼び名の状況

秋の夜に「チンチロリン」等と鳴く虫と言えば、唱歌「秋の虫」で有名なマツムシであり、現在も郡内全集落に生息するようである。

本種の呼び名としては、「チンチロ」や「チンチロリン」をはじめ計4種を採録した。

郡内全域で鳴き声に由来する「チンチロ」や「チンチロリン」等と呼ばれた。

鳴き声はよく認識され一般的であったが、実体は正確には認識されていない昆虫であり、スズムシのほか、人によってはコオロギとの混同もみられた。

一方、スズムシの鳴き声の聞きなしについては「リンリン」がほとんどで、「チンチロリン」という回答はでてこない。

オ 鳴き声の聞きなし

次の3種を採録し、広く「チンチロリン」等と鳴くと認識されていた。

- ・ チンチロ。 チンチロチン。 チンチロリン。

カ その他

当時、郡内では「マツムシ」は6月頃に松の木で鳴くハルゼミの呼び名となっていた。



⑪ その他のバッタ類 (バッタ目)

a) イナゴ似の大型バッタ (トノサマバッタ (バッタ科))

ア 対象種

トノサマバッタ

イ 採録した呼び名

- ・ 一般名 バッタ
- ・ その他 (イナゴ類総称) ガタギ、ガッタ

ウ 呼び名の状況

バッタ類の聴き取りの中で、イナゴ似の大型バッタの呼び名として「ガタギ」や「ガッタ」をはじめ計3種を採録した。

対象種としてはトノサマバッタがあげられる。

夏や秋に人家近くの野原で見かけられる大型バッタであり、郡北部から東部にかけての広い地域でイナゴが「ガタギ」と呼ばれたのに対し、その西に位置する集落の一部でイナゴと区分けをして本種がその呼び名とされていた。

なお、大きさは異なるがイナゴと同じ体型であることから、郡北・東部でもイナゴと同様に「ガタギ」と呼ばれることもあったものとみられる。



b) 茶色いイナゴ似のバッタ (ツチイナゴ (バッタ科))

ア 対象種

ツチイナゴ等

イ 採録した呼び名

- ・ 体色 ツチバッタ

ウ 呼び名の状況

バッタ類の聴き取りの中で、茶色いイナゴ似のバッタの呼び名として「ツチバッタ」の1種を採録した。

対象種としてはツチイナゴ等があげられる。

夏や秋に人家近くの野原で見かけられるバッタである。

